（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３１年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立妻沼高等学校）

目指す学校像	母校を誇れる生徒を育てる学校

重点目標	１　「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かりやすい授業・伸ばす授業を実践する。 ２　「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 ３　体験活動・キャリア教育等を実践し、進路意識を高め、一人一人の進路実現を図る。 ４　地域と連携し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　４名
　　生徒　３名
　　事務局（教職員）　６名

学校自己評価

年度目標					年度評価（２月１日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 成績優良者、皆勤者が増加し、問題行動が激減するなど学校が落ち着いてきた。 【課題】 自分の意見をまとめて相手に伝える力の育成	カルティベートタイム（ＣＴ）を軸とした教育活動の更なる充実と支援体制の継続	①ＣＴの充実・発展 ②Ｒ８０の定着 ③学びの基礎診断の活用 ④授業時間の確保 ⑤整理整頓	①ＣＴ研修会（年２回）、ＣＴ委員会の開催（毎月） ②Ｒ８０実施回数の増加 ③学びの基礎診断の実施、分析、活用 ④年間行事計画の見直し ⑤教室等の整理整頓（美化）	生徒の主体的学びを高める授業、Ｒ８０の取組等により、自分の意見をまとめて相手に伝える力を育成することができた。 ①年度当初、全教員を対象にＣＴ研修会を実施し目指す方向性等について確認した。 ①ＣＴ委員会の毎月開催が実施できなかった。 ②昨年度以上に、Ｒ８０を実施する教員が増え、生徒のまとめる力の向上が見られるようになった。 ③学びの基礎診断を２回実施した。苦手分野の分析、活用等については今後の課題である。 ④中間考査期間の短縮、インターンシップの廃止等、授業確保を基本方針とした次年度行事計画を策定した。 ⑤教室に、ロッカー収納のお手本写真を掲示するなど指導を徹底したことで、教室内の整理整頓が生徒に浸透した。	B	【課題】 ・「成績優良者、皆勤者」と「中途退学者、転学者、問題行動のある生徒」の二極化の解消 【改善策】 ・ＣＴ委員会を毎月必ず開催し、生徒の実態にあわせた教材選定、読書の時間の在り方等の検討を行う。 ・自分の考えをまとめ、相手に伝える力の育成に向け、更なるＲ８０の活用に努める。 ・学びの基礎診断の結果を踏まえた授業方法等について検討する。 ・授業確保を基本方針とする行事計画について継続的に検討する。 ・新入生に対して今年度と同様に、整理整頓指導を徹底する。
2	【現状】 式典等で校歌が大きな声で唄えるなど、学校全体が落ち着いてきた。 【課題】 生徒情報の共有化の徹底、特別な支援の必要な生徒への指導体制の確立	本校の指導基本「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の徹底及び保護者、外部専門機関、ＳＣ、特別支援巡回支援員等との協力体制の確立	①全教職員による「礼儀・身だしなみ・時間厳守」指導の実施 ②ＬＨＲや総合的な探求の時間を活用した、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室、ネットトラブル防止教室等の実施 ③生徒情報の共有化 ④外部専門家（ＳＣ、特別支援巡回支援員、多文化共生推進員等）や、サポステ等の外部専門関係機関を活用した生徒支援	①②③④欠席、遅刻、早退者数の減少、問題行動による指導件数及び中途退学者の減少（昨年度比－２５％） ①②③④生徒アンケートにおける母校となる妻沼高校を良くしたいと思う生徒の増加（前年度比＋１０％） ①②③④保護者アンケートにおける学校満足度の向上（前年度比＋５％）	・生徒情報ファイルの整備により、生徒一人一人の特性を把握した生徒指導が定着した。 ①②③④ ・日々の担任指導等の効果が実り皆勤者数が増加した。 ・礼儀・身だしなみ・時間厳守を守っていると答えた生徒が増加した。（８８．２％） ・生徒指導件数が１年生を中心に増加し（前年同期＋２５名）、中途退学者数も増加した。（前年度期＋８名） ・母校を良くしたいと答えた生徒が大きく増加した。（８０．０％：前年度比＋８．３p） ・校歌を歌いたいと答えた生徒が増加した。（７９．８％：前年度比＋２．０.） ・妻沼高校に入学して良かったと答えた生徒が大きく増加した。（８０．６％：前年度比＋８．９p） ・妻沼高校に子供を入学させて良かったと答えた保護者が大きく増加した。（９４．４％：前年度比＋５．０p） ・コーディネーターを中心に、外部専門家と連携した生徒支援が定着した。	B	【課題】 ・生徒指導件数、中途退学者の減少 【改善策】 ・予防指導の徹底 ①問題行動が起こってから対応するのではなく、問題行動が生ずる前又は早期に解決・対応できる体制づくりの構築 ②外部専門機関（警察、児童相談所、サポートステーション）等との連携 ③中学校との連携強化 ・スクールカウンセラー、特別支援巡回支援員と連携した生徒指導体制の継続的な実施と深化
3	【現状】 学校紹介による就職希望者が全員内定するなど、卒業生の進路決定率が９０％を超えた。 【課題】 全卒業生の希望進路の実現に向けた３年間を見通したキャリア教育の実現	全ての生徒の希望進路の実現に向け、将来の目標、希望を早期に意識させる進路指導体制の構築	①進路追跡調査、過去データの分析 ②早期離職防止策の検討 ③外部関係組織（熊谷市、商工会、ハローワーク等）、ＰＴＡとの協力・連携 ④進路報告会の充実	①効果的な進路計画の立案 ①「進路の手引き」の活用（随時） ②進路決定率９０％、就職内定率１００％（学校紹介）、早期離職者の減少 ③段階的な面接指導（他校との合同集団模擬面接、ＰＴＡ・ハローワーク・就職支援アドバイザーによる模擬面接の実施） ④３年生が１、２年生に進路に対する心構えや体験を伝える「進路報告会」の充実	進路指導部と学年が一体となった進路指導が定着した。 ①進路の手引きを一新し、手引きを活用した計画的かつ組織的な進路指導に取り組んだ。 ①生徒指導（頭髪服装指導等）と一体となった進路指導に取り組んだ。 ②熱心な指導の成果が実り、１２月末現在、進学決定率は９８．０％、就職内定率は県平均を上回る８９．３％であった。 ③就職支援アドバイザーを活用した、企業人としての目線に立った面接指導、アドバイス等を実施した。 ③学校外の進路相談会への複数回参加、ＰＴＡ、ハローワーク職員、教員による面接指導を複数回実施した。 ④３年生から１、２年生に対して進路に対する心構えや意気込みを伝える進路報告会は、生徒の進路意識の向上に大きな役割を果たした。	A	【課題】 ・就職未決定の生徒への指導 【改善策】 ・ＣＴやＬＨＲを活用し、進路を意識させる指導に入学後早い時期から取り組む。 ・三者面談等を活用し、保護者から子供の卒業後の進路に係る意向確認を行う。 ・ハローワーク、ＳＣ、サポートステーションと連携した進路指導を継続的に実施する。 ・学校外の進路相談会等に積極的に参加し、他校の生徒を意識させる。
4	【現状】 以前に比べ部活に加入し活動する生徒、大会に出場する部が増えたことで学校に活気が出てきた。 【課題】 部活動加入率の更なる向上、学校行事の活性化	学校行事、部活動等を通して、心身ともに豊かな人間性の向上と学校の活性化の推進	①ＰＴＡ・後援会と連携した学校行事の実施 ②近隣小学校、中学校及び妻沼地域との連携 ③部活動加入率の向上、大会への参加、表彰回数 ④ホームページの充実	①学校行事、ＰＴＡ・後援会活動への保護者参加者数の増加 ②地元行事への積極的な参加、地元小学校との交流 ③部活動加入率の向上（１０％）、表彰回数（人数）の増加 ④学校の様子等のＨＰ随時発信、更新	放課後グラウンドで元気な声が聞こえるなど、運動部活動が活性化した。また、写真部の全国大会、商業部の関東大会出場など、文化部活動も活躍した。 ①ＰＴＡ総会、理事会、轍祭、研修旅行の出席者が大きく増加した。 ②妻沼手づくり市に、野球部、サッカー部の生徒がボランティアとして参加し、その活躍が主催者から絶賛された。 ②妻沼文化祭に、華道部、書道部、写真部、文芸創作部、科学部が展示発表、チアダンス部が演技発表し、実行委員長（市議）から感謝の言葉と来年度以降の参加を依頼された。 ③始業式等の部活動の表彰者が６０人を超えるなど大きく増加した。 ④ホームページの閲覧者が増加し、学校の情報を広く提供することができた。	A	【課題】 ・地元妻沼唯一の高校としての更なる活気ある学校づくり 【改善策】 ・部活動の更なる活性化、地元中学校との合同練習の実施 ・地元開催行事への積極的な参加 ・北部支部長校となる来年度、ＰＴＡ活動の更なる活性化を図り、総会、理事会等、保護者の来校回数を増やす。 ・中学生等の来校時における、部活動生徒によるおもてなしの機会の設定

学校関係者評価

実施日　令和２年２月１２日

学校関係者からの意見・要望・評価等
・カルティベートタイムは、学び直しをしたい生徒にとても良い取り組みである。地道な積み重ねが生徒の自信につながっていると感じた。 ・Ｒ８０はとてもよい取組なので、中学校でも取り入れてみたいと思った。 ・教室の生徒ロッカーが、よく整理されていた。（昨年度の評議員からの意見を踏まえた対応による成果）
・上履きのかかとを踏んでいる生徒が一人もいなかった。 ・登校指導の際、あいさつをしてくれる生徒が増えてきた。 ・生徒アンケートで、「入学して良かった」と答えた生徒が大きく増加したことは、ここ数年の取組の成果の結果であると思う。 ・保護者が学校に求めることで、「休まず登校すること」が大きな割合を占めていた。皆勤者も増えているようだが、休まず登校できる生徒の育成は、妻沼高校の大きな使命であると感じた。
・県平均を上回る就職内定率は素晴らしいと思う。 ・ＰＴＡとしても、模擬面接などをとおして生徒の希望就職の実現のため全力で支援させていただきたい。 ・３年生による進路報告会はとてもよい企画だと思う。 ・他校の生徒と一緒になる学校外の説明会は、本校生徒にとって良い刺激になると思うので継続して実施して欲しい。
・ＰＴＡ広報誌「さざなみ」の表彰の欄が昨年度に比べて飛躍的に増えるなど、部活動の活躍、資格取得に素晴らしい成果があった１年であった。 ・地元のイベントに、昨年度と比べて多くの生徒や部活が参加するなど、地域との交流に積極的に取り組んでくれたと思う。 ・生徒会活動を多くの生徒に知ってもらうため、生徒玄関に、生徒会連絡掲示板などを設置してみてはどうか。 ・生徒会が中心となって、部長会を開催したり、聖天様の落ち葉拾いなどをやってみたらよいのではないか。